

●京田辺市民祭り 展示会場に出店

吉村尊成氏の言葉（印刷機を利用されていた方 マラソンにも積極的に協力されています）。

「里山の会は長年活動が続けてきた活動の成果が発表されている。本当に素晴らしいことです。」とコメントをいただきました。また「木津川はどんな川」「木津川の草花たち」がそれぞれ2冊を買い上げてくださいました。いずれも内容が優れていると評価を頂いたものです。



全体（体育館周辺コミュニティセンターや中央公民館）を見渡してみると、それぞれの出店者や団体は出店費用などを自己負担できる基礎力がある団体とみられました。収益が上げられるかどうかの課題を度外視した取り組みのように見えました。すなわち以前のように出店負担にやきもきする弱いところは淘汰されているようでした。今回の展示物を紹介します。

展示場にお越しになった摂南大学生にイタセンパラの復活を目指して活動

していると説明し、協力をお願いしました。またお花の先生は木津川の花ごよみの冊子に協力金をいただきました。この二日間で解説や説明など150人以上の方々にきいていただきました。上の写真は若者に語り掛ける播川司理事の様子です。

●竹幅精製機の仕上げに全力を

初めて竹蛇籠の製作に取り組んだ（2015年）時から最も学びましたのが正確な均一のできる竹割と割った竹の幅を均一にする道具が必要でした。2017年には高橋氏の協力で竹割機が製作され、200本の竹割のための200回以上の走り込みという高齢者にとっては非常にきつい作業から解放されました。以後の製作に威力発揮しています。続いて均一の幅の主材を得て見栄えのいい蛇籠にするために幅精製の苦心をしてきましたがこれまでは成功できませんでした。今回会員の吉村さんが快く挑戦を引き受けていただきました。竹を押し込む装置、そして幅を生成する装置、引き抜く装置つくりと合わせて、共通するのが主材の多様性（肉厚、硬さ、太さ）があるので対応性（応用性）が各パーツごとに求められるので難題です。これらの課題にこたえられるものに出来上がることに大きな期待をしています。



●桂川（嵐山）に竹蛇籠を設置出来ました 石詰めは12日に10時から行います。これまで木津川で竹蛇籠や中聖牛の取り組みを行ってきましたが、2022年度には 木津川を離れて保津川漁協の皆さんと嵐山の渡月橋の下流に竹蛇籠の設置を行いました。11月7日（月）の午前9時から里山の会から3人（太田 播川 有田）が支援に駆けつけ本流に設置しました。5mの蛇籠を2本



ずつの組み合わせです。そして2mの木杭で川底に固定できました。大型ユンボの力で2mの杭が打ち込まれました。12日（日）の午前10から設置した竹蛇籠に集積した保津川の石を詰め込む作業を行って竣工となります。これには多くの人手が必要ですので皆さんのご参加をお願いします12時頃には出来上がると思っています。

●11月7日 エコネット近畿さんから里山の会の活動視察に正阿彌事務局の正阿彌さん（写真下段右中）事務局の山下さん（写真左下）そして寺岡さん（写真右上）がお越しになりました。活動内容の説明に続いて、サインペン（竹製で試作中）について話が弾みました。里山の会から大村理事長と山村と木下（竹ペン製作者）の3人が対応しました。



●11月の日程

11日 玉水浜カルバート竹納入 松美組
12日 桂川（嵐山）石詰め作業
13～18日 玉水浜竹割作業（50本）カルバート
19、20日、26、27日 竹蛇籠製作講習会（9本）
27日 同志社大学ボランティア来所里山農園周遊通路づくり約10人

●12月の日程案

3、4日 静岡県博物館訪問 柿田川のアユの遡上見学、	25日 年末餅つき、しめ縄づくり
4日 尾根筋ハイキングコース年末清掃	28日 事務局会議 十大ニュース決定発表
17、18日 同志社大学サッカー部ボランティア活動	29日 御用納め
里山農園周遊通路づくり約20人	
18日 冬の昆虫観察会	
20日 国交省木津川希少種生育調査管理業務 2022年度分報告	

●10月29日サツマイモ掘りを実施 参加者0人でした。去年はイノシシに柵を超えて侵入を許して芋掘りの予定前日に全部掘り返されて全滅させられましたので、その経験から夜間撮影可能カメラを設定し進入路らしきところを徹底して補強しました。また防護柵の外側の雑草刈りにも精を出して芋掘り日のために防御対策をしてきました。掘りたての芋で焼きイモなどをしようと手ぐすねをして皆様のご来場をお待ちしていました。しかし準備万端用意出来ましたが、あいにくご参集していただけなく空振りになりました。大村さんや森島さんたちスタッフによって掘りました。おいしそうなサツマイモが50kgでした。

●小川芳也さんの松江通信 No. 6

八岐大蛇伝説にはいろいろな説があるようですが、ここでは最も有名なお話を取り上げることとします。ただし、主人公である須佐之男命（スサノオノミコト）がどのようにして伝説の舞台に降り立ったのかを今週は取り上げさせていただきます。

父神である伊邪那岐命（イザナギノミコト）の命に従わなかった須佐之男命（スサノオノミコト）は、追放処分を受けてオノコロ島（現在の淡路島の淡路）から姉神の天照大神（アマテラスオオミカミ）を頼って高天原（たかまがはら）へ向かいます。高天原にて須佐之男命は「天つ罪」と言われる大罪を犯したことで、天照大神の怒りをかってしまい、天照大神は天の岩戸に隠れてしまいます。日の神である天照大神が姿を隠してしまったので、高天原も葦原の中つ国（天上の高天原と地下の黄泉の国との中間にある、現実の地上の世界の意味）も暗闇の世界になってしまいました。これが「天の岩戸」のお話です。そのため、須佐之男命は高天原の神々によって2度目の追放処分を受けてしまいました。 この続きは次回に・・・